

第1回(仮称)茂原市民会館建設基本構想アドバイザー会議概要

日 時	平成 29 年 10 月 7 日(土) 9:30~11:45
場 所	茂原市中央公民館 1階 講座室
参加者	<p>【委員】 五十嵐 誠委員 (東洋大学特任教授・茂原市公共施設あり方検討委員会委員長) 倉田 直道委員 (工学院大学名誉教授・(株)ア・バン・ハウス都市建築研究所取締役) 篠原 聡子委員 (日本女子大学家政学部住居学科・空間研究所主宰) 古橋 祐委員 (昭和音楽大学音楽芸術運営学科教授・(株)古橋建築事務所所長)</p> <p>【茂原市】山田・渡部・米倉・錦織・村井・酒井 【シアターワークショップ】伊東・今川・渡邊・古川</p>
議 題	1. 茂原市挨拶 2. 委員紹介 3. アドバイザー会議の役割について 4. 茂原市概況・既存文化施設状況 5. 検討経緯・スケジュール 6. その他(市民会館・中央公民館視察)

会議における主な意見は下記の通り。

- ・ (篠原委員)
市のマスタープランと公共施設のあり方というのは密接に関わってくる。茂原市としては大きなものとなる、それがまちへ与える影響は大きい。立地によって施設のキャラクターも考えられてくる。まちづくりとしては良い機会。建物ひとつでまちが変わってしまうこともある。ビルバオのグッゲンハイムの例のように。全体のまちづくりの中で、立地、キャラクターを考えると、確かに外房の中核都市としての役割を担う、ということを考えていった方が良いのではないか。
- ・ (古橋委員)
中央公民館もこれだけ使われているというのはすばらしい。駅から 2km というのは少々微妙な距離。住民の人々はどのようにこの施設にアクセスしているのか。立地が郊外となった場合にどうアクセスするのか検討する必要がある。
- ・ (倉田委員)
これから考えたときにアクセス状況は変わっていく。今は車社会のピークでこれからの時代はコンパクトシテ

ィ化と言われており、都市機能の効率化が進んでいこう。都市のコンパクト化は避けられないし、それを公共交通が支えていく。次世代の移動手段も考えて検討しなくてはならない。今後の交通と公共施設についていかにセットにして考えていくかが重要。高齢者や、免許を持っていない人など交通弱者が増える中で、特定の人だけにサービスを提供するのは避けたい。現敷地での建替えとなると市民会館と中央公民館の複合化が想定されるが、その際には公民館のあり方、立地との関係についても考えるべき。他敷地だと規模を考えると複合化は難しいのではないかな。

・ (古橋委員)

さまざまな資料に目を通した中で、演劇部門の声がとても少ないように感じる。

・ (五十嵐委員)

ニーズということで、一般市民の自己表現の場ならば 1,000 席は大きいのではないかな。どのあたりに重きを置けるかが分かれ道。シーンとして、成人式、卒業式とか、そういったところで 1,000 席が必要なのかなどうか、他の施設の利用などを検討して判断する必要がある。

・ (古橋委員)

舞台の大きさを考えても、市民の発表の場なら東部台を利用してもらえば充分ではないかな。バレエやオーケストラなどの舞台大きさが必要ならば市民会館を利用する。実際の席数と何をやるのかということはどこで調整するかなが難しい。1,000 席はいらなないかもしれないが、最終的な着地点は慎重に考えるべき。若い人の意見がどれだけ届いているのか。バンド活動などそういう人たちがどのように活動しているかな。

・ (倉田委員)

ホールを発表の場として、市民利用を前提とするとおそらく日常の活動の場が欲しいというニーズもあるのではないかな。

以上